

地域密着型サービスの自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「感謝と感動、喜びと意欲、安心と安全」その人らしく暮らし続けることを支えるという職員の強い気持ちからこのグループホーム独自の理念をつくりあげている。	○	地域密着型サービスを基本とした内容をもう少し取り入れたい。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	自分たちで作った理念を指針とし実践に向けて日々取り組んでいる。（グループホーム玄関に掲示し出勤時見るようにしている）		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	面会時に見ていただけるよう玄関に掲示したり園だよりに掲示する等家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出退勤時や利用者との散歩時挨拶を交わしている。	○	気軽に立ち寄ってもらえるようなこちらからの働きかけをする。（夏祭りには出店のチケットを配布してもらっている）
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭、運動会、敬老会等に参加し地元の人々と交流することに努めている。	○	町内の行事に積極的に参加し交流を図りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の老人クラブにより奉仕作業（草刈り等）行ってもらっているがグループホームからの地域貢献度が低い。	○	地域の高齢者の暮らしに役立つことはないか話し合いを行い実施していく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	時間が空いた時に外部評価の結果を見たり自己評価票を見て話し合う等して具体的な改善に取り組んでいる。。	○	より良いケアを行う為に自己評価及び外部評価を活かして具体的な改善に取り組む。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し情報交換や外部の意見を取り入れサービス向上に活かす努力はされている。	○	利用者やサービスの透明性を図った報告や話し合いを行いサービス向上に活かす。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	4年前より宮崎市が実施している認知症ケアマネジメント推進会議に参加したり高岡総合支所の職員との関係づくりを積極的に行っている。	○	市町村との連携を深め市町村と共にサービスの質の向上に努める。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会へ参加し職場の定例会で発表し勉強会を実施しているが浸透性に欠けている。	○	権利擁護に関する制度の理解と浸透性を深め必要な人にはそれらを活用できるよう努める。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会に積極的に参加し定例会で発表・勉強会をし虐待防止に努めている。	○	職員間で常に話し合い虐待防止に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問のないよう十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンス前に意見、不満等聞くようにしている。又、日頃の会話や表情より利用者の心理をくみ取るよう心掛けている。	○	日頃のケアの中で一人ひとりの精神面を観察し職員間で情報の交換を行う。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話等で利用者の暮らしぶりや健康状態報告を行い金銭管理に関しては定期的に小遣い帳を確認して頂いている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やアンケートを郵送する等意見・不満・苦情を表せる機会を設けそれらを運営。苦情・意見ノートを設置し面会時何でも言える雰囲気づくりに留意している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の個人面談（管理者と職員）月1回の定例会で意見や提案を聞く機会を設け反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族が病院受診対応ができない時は職員間で話し合いシフト変更等行い柔軟な対応ができるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3ユニットあり普段から各ユニット間の馴染みの関係を重視している。各行事、合同レク、食材取り等を通して利用者、職員との交流を深めることを心掛けている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内、外部の研修や毎月の定例会を実施している。各専門分野の講習や全員が共有できるよう研修内容を報告する機会を設けている。	○	内外の研修を段階に応じて受けそれで終わりにならないよう定例会で勉強会を行い反映させる。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央ブロック研修や認知症ケアマネジメント推進事業等に参加している。他ホームの情報や学んだことは定例会で報告し意見交換を行っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年1度のスポーツ交流や職員旅行を実施している。	○	老若男女問わず共通してできるスポーツ交流を定期的に取り入れる。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回の人事考課で個々の努力や実績を評価、コメントを見て各自が向上心をもって働けるよう努力がなされている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学に来られた際は本人の話をよく聴き優しく受け止める努力をしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学に来られた際は家族の困っていることや不安などをよく聴き受け止めるよう努力している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族にとって何が一番必要かを見極め色々な角度から見て幅広いサービス対応に努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学時や事前に家族同伴で来園してもらいホームの雰囲気、指針等を理解・納得の上でサービスの利用開始を行っている。	○ 誰かきても「ここで暮らしたい」と思えるような雰囲気を日頃から心掛けておく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念にもあげ共に支えあう関係を築ける様に努めている。日々利用者から学ぶものを職員間で話している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の思いを共有し一緒に支えていく関係を築くよう努めている。	○	日頃から家族に利用者の状態報告を行い本人への思いを共有し共に支えて行くという関係を築いていく
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族のコミュニケーションが取れるような働きかけにつとめている。（電話をかけ話して頂いたり面会に来られるような働きかけ）	○	本人と家族の架け橋になり関係を理解しより良い関係が築けるよう支援する。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所が途切れないよう家族に外出・外泊の働きかけやミニドライブで馴染みの場所へ行ったりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係（レベルの違いや性格）を把握し利用者同士が支えあえるような環境づくりに努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者が何らかの疾患で入院した場合はいつでも帰って来られるという関係を断ち切らないよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に職員間で情報や意見の交換を行い利用者一人ひとりの思いや意向の把握をしながらその人らしく過ごして頂く支援に努めている。	○	日々利用者の暮らしをより深く観察し思いや意向を把握する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から情報を提供して頂いたりこれまでのサービス利用の経過等から一人ひとりの馴染みの暮らしの把握に努めている（事例をあげセンター方式を活用してみる等）		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	常に職員間で情報交換を行っている（口頭や申し送り簿・日誌等）		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向、医務、栄養士等の意見を反映した介護計画を6か月毎に作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月毎の見直しを行っている。見直し以前に対応できない変化が生じた場合は関係者と話し合い現状に即した新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、ケアプラン実施票等、個別に記録し情報を共有しながらケア実践や介護介護計画の見直しに活かしている。	○	記録を詳しく書くことも大事だ。記録の簡素化（短く分かり易く）に取り組みたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人のや家族の状況に応じて受診時の付添等柔軟に対応している。	○	家族と職員が本人の思いを共有し協力し合えるような信頼関係を作っていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の老人クラブやボランティア、消防等協力しながら支援している。	○	普段から地域の人々や消防署とのつながりを密にしておく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを活用するまでには至っていない。	○	幅広い視野をもち柔軟な対応ができるよう心掛ける
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターのケアマネジャーにケアマネジメント等の助言をもらったり情報の交換を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重しつつでも適切な医療が受けられるよう支援している又、希望があればそれぞれのかかりつけ医に受診している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	複合施設で専門医ではないが医師との関係を築きながら利用者が認知症に関する診断、治療を受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	複合施設なので看護職は利用者を把握しており気軽に相談でき健康管理や医療活用の支援をしている。	○	普段から気軽に相談できるようコミュニケーションを図っておく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院との情報交換、相談に努め必要な物を直ぐ届け家族の変わりに付き添う等協力している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族にはターミナルにおける介護の方針については文書にて承諾を得ている。ターミナルケアについての研修会の参加や学習会も実施している。	○	内、外研修等で理解を深めていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアはまだ実践していないが複合施設なので医療体制も整いターミナルケアについての理解も深めつつある。	○	普段から病院、チームとのコミュニケーションを取り体制を整えておく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院、退所の際にはグループホームでのサービス提供の経過や状態報告を行い本人のダメージを防ぐことに努めている。	○	できるだけ環境が変わらないように情報提供に努める。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳、プライバシーを守る対応をする勉強をし実践を努めている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者とのコミュニケーションを図り思いや希望が表せるような働きかけをし自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	○	利用者の自己決定の元で暮らせるように支援をする。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう日々利用者のペースに合わせて接するように努めている。	○	あくまでも利用者本位のその人らしい暮らしができる個別ケアを目指す。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望やその人らしいお洒落ができるよう支援している。家族が馴染みの美容室へ連れて行く方もいる。	○	いつまでも身だしなみやお洒落を忘れないような働きかけをする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に毎回献立を発表し一人ひとりの好みや能力に合わせた食事提供、その日の状況に応じて後片付けを会話しながら行っている。	○	一人ひとり出来ることを見極め、力を活かしながら意欲を引き出せるよう支援する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族からの預かりや買い物したおやつを日常的に楽しめるよう支援している。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの力や習慣を活かして失敗や紙パンツ使用の軽減に努めている。	○	拒否のある利用者の思いを把握し排尿状況をチェックしたり声掛けの工夫や時間をずらしたりして自己決定のもとで行ってもらっている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のタイミングに合わせて入浴が楽しめるように支援している。	○	入浴をレクリエーションとしてゆっくり楽しんで頂きたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室、食堂のソファ、ホール椅子と一人ひとりが自由に選択しその場所へ行き休息をとっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとり力を活かした役割、楽しみ事、気晴らしの支援をしている。	○	張りのある充実した日々を過ごせるようゆとりある支援をする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は職員が行っているが行事等で外出した際お店に寄り好きな物を買って頂いている。	○	お金を持っていることの安心感、自由に使えることの喜びを支援する。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常生活の中で一人ひとりの希望や状態に応じて戸外に出掛けている。	○	戸外に出掛けている利用者が限られているので片寄りなく一人ひとりに応じた外出支援を行う。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族とのふれあいデー（ダイエーでの買い物、食事）、外食の日、ミニドライブ等計画し支援している。	○	ふれあいデーを実施していく毎に家族にアンケートを取り調整しているが内容を改善しながら継続していく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状（写真入り）を自筆で書いてもらい家族に出している。家族からも本人宛てに送ってくることが定着してきた。	○	年賀状に限らずいつでも電話で話せいつでも手紙が書ける働きかけを行う。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られたら居室に直ぐ椅子を準備しゆっくり過ごして頂ける様にしている。	○	職員が笑顔でお迎えし程よい距離を置きゆっくりして頂く。また来ようと思われるような情報提供の工夫も忘れない。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内、外研修等で身体拘束の理解を深めると共に身体拘束のないケアに取り組んでいる。		

宮崎県宮崎市高岡町 グループホームたちばな（2号館）

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいる（玄関にはベルを取り付けている）		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で声掛けしながら所在や様子を把握し安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて危険を防ぐ取り組みをしている。（置き場所等）	○	出来るだけ馴染みの物はなくさず殺風景にならないようにしたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月リスク委員会を30分程行い3ユニットの事故、ヒヤリハット報告を行い原因や今後の対応等を話し合い定例会で報告し今後の事故防止に反映している。	○	常に先のことを考え一人ひとりの状態に応じた事故防止を行う。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	園内研修や消防署に依頼する等応急手当や初期対応の訓練を行っている。又、ビデオ鑑賞も行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回避難訓練を行っている。年2回程消防署の方も来られている。年に1度全体の非常時職員連絡網訓練をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	起こり得るリスクについては面会時に説明している。	○	家族の不安や不信感とならないような説明の仕方に留意する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、入浴時バイタルチェックを行っている。常に早朝の体調変化、異変の発見に努め職員間で情報を共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬について目的や副作用、用法等理解し服薬と変化の確認の支援を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状況を処遇表等から把握できていて食事、水分補給、運動の働きかけをしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定、BMIを記録している。摂取状態水分量が確保できるように一人ひとりの状態に応支援している。	○	栄養士の助言頂きながら栄養、水分摂取の支援を行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	予防接種、ビデオ等で予防についての勉強会を実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。食中毒予防の勉強会等も実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	フェンスの高さが気にならないよう季節の花々を飾っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感の飾り付けを利用者と一緒に作成し飾ったり居室、食堂等はカーテン、よしず等で居心地よく過ごせるよう調整している。	○	安全面を優先してしまい殺風景になりがちである。もう少し馴染みのものや好みのものを置き生活感を取り入れたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にも一人ひとりの居場所があるような環境づくりに工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り付けや本人、家族が選んだ馴染みのものや好みの物を置き居心地よく過ごせるよう工夫しているが不十分である。	○	一人ひとりに応じて馴染みのものや好みのものを置く（家族の写真や絵、本人が使用していた日用品等）
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝利用者の起床時には換気に気をつけている。ホール、食堂のみ冷暖房を入れ後は利用者に配慮しながら居室のドアを開け調整している。（外気温と大きな差がないように）		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールの周り、トイレ等は手すりを設置している。浴室には滑り止めを設置している。	○	利用者一人ひとりの身体機能を活かせる環境づくりに工夫する。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者のペースに合わせた介護に努めている。（洗濯物たたみやおしぼりたたみ等その時に応じて役割分担して行っている。）	○	一人ひとりの力を発揮できるよう「待つケア」に努める。（排泄、整容、更衣、作業等）
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外気浴、散歩時いつでも座れるように机と椅子を置き季節の花が置いてある。面会後の見送り時、夏祭りの時は食事や花火見物等に活用している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

- ・担当利用者の状況報告を常に家族へ行っている。
- ・利用者の起床時に居室の換気をすることで熱発者がいない。